



## 教室の窓辺

### 関わり愛と地域愛から

### 生まれた挑戦

新城市立黄柳川小学校

(前任校 新城市立作手小学校)

教諭 田尻 恵子

「今年はどうしよう」と、頭を悩ませていた総合的な学習の時間が、いつしか「今年は何に挑戦しようか」と、子どもと共に考えることに、私の胸は躍らされるようになっていました。

作手小学校は、教育目標である「挑み続ける子」を目指し、研究主題を「作手との関わりの中で自分の思いや考えを発信できる子の育成」としています。そこで、日々の授業で、子どもがわくわくし、自ら関わりたい、思いを発信したい、という態度を育めるような教材を求め、研究を進めてきました。

「作手の活性化のために、作手の魅力を多くの人に発信したい」「作手でがんばっている人を応援したい」と、生き生きとした表情で思いを発信する子どもたち。地域の方々に見守られ育ってきた作手愛にあふれる子どもだからこそ、地域へ貢献したいという熱い思いがこめられた話し合いとなります。そんな子どもたちは、「スクープ作手の仕事人」来て見て感じる作手のみりよく愛するわがまち♡作手応援隊」と大きなテーマを掲げ、一年間さまざまなことに挑み続けました。

まず、作手応援隊となって、地域で働く仕事人を紹介しようと考えました。そして、もっと広く深く作手のよさを発信したい、そのために必要となる活動資金を集めようとクラウドファンディングとバザーへの挑戦を決めました。多くの方々のご協力のおかげで、活動資金を集めることに成功した子どもたちの達成感は、次の活動への大きな原動力となります。

いよいよ、集めた資金を活用しての発信活動です。「作手以外の人に、作手っていいなと感じてもらうことが必要」と、他地区のイベントに出店することによる作手の宣伝活動を考えました。地元建築会社から提供していただいた鮑屑<sup>かんこく</sup>で、ポンポンや花を作るワークショップを開いたり、作手の自慢の食材を味わってもらおう試食コーナーの設置をしたりしました。初対面の方々にも作手の魅力を堂々と発信している子どもの一生涯懸命な姿から、作手のよさを知ってもらいたい、広げたいという強い思いが伝わってきました。

このイベントで、子どもの熱意に共感してくださる方と出会いました。その方は、ベルギーから一時帰国中の方で、子どもが紹介した作手の特産品の一つ「奥三河ほうれんそう」をベルギーのシェフに紹介してくださったのです。自分たちの発信が海を渡ったと知ったとき、子どもたちは信じられないという驚きと感動で喜び合いました。

今後、地域教材を生かし、地域と関わり合う授業づくりを大切に、挑戦していく子どもたちに寄り添っていきこうと思います。そして、私自身も「挑み続ける教師」でありたいと思っています。



「新城軽トラ市」で発信する子どもたち

地域で温かく見守られ育っている子どもたちは作手愛にあふれています。もっと多くの人に作手のよさを知ってもらいたいと、目を輝やかせながら語る子どもの姿があります。

田尻教諭は、一人一人の子どもの思いを大事にするため、自分が作手を知り、広く深く調べ、地域の方との対話を楽しむという熱心な姿勢があります。地域と共に、子どもの興味に寄り添う单元を構想し、年間を通してダイナミックな実践に取り組んできました。その結果、どんな課題もあきらめず追究し、友達と協力しながら、作手のよさを発信することに挑み続ける、生き生きとした子どもの姿につながりました。

新たな学校でも、子どもがわくわくしながら前のめりになって取り組む授業を実践する田尻教諭の活躍を期待しています。

新城市立新城中学校

(前任校 新城市立作手小学校)

校長 服部 智子